

6 インストール説明書

6 . 1 概要

本マニュアルは、「受発注に伴う技術情報交換システム（以降 SWG72 と略す）」をインストール及び設定するための手順を示すものである。

以下に示すものについて説明する。

表 6 . 1 - 1 本マニュアルで説明する項目

名称	動作 OS	他のソフトウェア
SWG72 サーバ	VineLinux1.1CR	
SWG72 発注者側管理者クライアント	MS WindowsNT4.0(SP5)	MS Access97
SWG72 発注者側クライアント	MS WindowsNT4.0(SP5)	MS Internet Explorer 5.X
SWG72 受注者側クライアント	MS WindowsNT4.0(SP5)	MS Internet Explorer 5.X

6.2 受発注に伴う技術情報交換システムサーバに関する説明

6.2.1 適用機種

本システムは、P C -AT 互換機 (DOS/V) 上で動作する。

6.2.2 適用 OS

本システムは、VineLinux1.1CR 上で動作する。

6.2.3 記録媒体

本システムの動作に必要な機能一式は、以下に示す記録媒体に格納される。

(1) 「受発注に伴う技術情報交換システム (SWG72)」 CD - R (1 枚)

6.2.4 前提プログラム

本システムは、以下に示す機能上に構築されている。全てオープンソースとして公開されている。上記に示した記録媒体に動作するイメージとして格納されている。(但し「jperl5.004_04-980303」のみ OS に付属している。)

表 6.2.4 - 1 前提プログラム一覧

種別	名称
DBMS	PostgreSQL 6.5.3
Web サーバ	Apache 1.3.9
Web サーバ拡張	mod_perl 1.21
Web サーバ拡張	ApacheDBI 0.82
DB インターフェース	DBI 1.13
DB ドライバ	DBD-Pg 0.92
バッチプログラム用言語	jperl5.004_04-980303 (OS に付属)

6.2.5 インストール及び設定手順概要

SWG72 サーバのインストール及び設定は以下の手順でおこなう。

1. OS (VineLinux) のインストール及びネットワークの設定
2. OS (VineLinux) 及びネットワークの正常動作の確認
3. SWG72 サーバソフトウェアのインストール及び設定
4. SWG72 サーバソフトウェアの正常動作の確認

以下に各手順の詳細を示す。

6.2.6 OS (VineLinux) のインストール及びネットワークの設定

VineLinux のインストールは、VineLinux のパッケージに付属する「ユーザーガイド」に基づきおこなう。

以下に示す点を除き、インストーラの示すデフォルトを選択するかまたは、自分の環境に合わせて選択すればよい。

以下に OS インストール時に標準構成と変える点について述べる。

パーティションの設定

ディスクの設定には「Disk Druid」を使用し、パーティション設定を以下のようにおこなう。swg72 サーバソフトウェア環境は全て「/home」上に導入されるので、「/(ルート)」とはパーティションを分け、十分な容量を確保するようにする。

表 6.2.6 - 1 パーティション設定

ドライブ	マウントポイント	サイズ	種類
hda (IDE)		127M	Linux swap
hda (IDE)	/	残り全て	Linux native
sda (SCSI)	/home	全て	Linux native

インストールするコンポーネント

SWG72 サーバのインストール及び動作に必要な以下のものだけ導入するようにする。

表 6.2.6 - 2 インストールするコンポーネント

コンポーネント名
LAN 接続
開発ツール

上記のコンポーネントしか選択しないことにより「解消されていない依存関係」

として、いくつかモジュールが表示されるが、その場合は、「依存関係を解消するためにパッケージをインストールする」を選択し「了解」する。

以下は X Window System の設定に必要な項目だが、本システムでは X Window System を使用しないため本来、設定の必要はない。しかし、VineLinux1.1CR のインストーラの都合上、設定を問い合わせてくる場合があるのでその場合は、以下の値を設定するようにする。

ビデオカードの選択

ATI Mach64 3D Rage IIC

モニタセットアップ

ここで「戻る」ボタンを押すと、以後の X Window System の設定をスキップできる。

カスタムモニタセットアップ（問い合わせが出た場合）

水平周波数範囲： 標準 VGA

垂直周波数範囲： 50-70

ネットワークの設定

ブートプロトコルの選択画面で固定 IP アドレスを選択する。

TCP/IP の設定画面で IP アドレス、ネットマスク、デフォルトゲートウェイの IP を自分の環境に合わせて設定する。

サービス

以下のデーモンのみ起動するようにする。

表 6 . 2 . 6 - 3 選択するサービス

デーモン名
canna
crond
inet
kerneld
keytable
network
portmap
random
sendmail
syslog

6 . 2 . 7 OS (Vine Linux) 及びネットワークの正常動作の確認

上記の手順で OS インストール及び設定後、OS の再起動を行い、以下の動作ができたことをもって正常動作の確認をおこなう。

ルートログイン

コンソールにログインプロンプトが出力され、インストール手順中で設定したパスワードで、ルートユーザでログインできること。

```
Vine Linux 1.1CR (Rheingau)
Kernel 2.0.36 on an i686
login: root
Password:_____
Last login: Wed Jan 26 16:08:15 from XX.XX.XX.XX
[root@swg72sv /root]#
```

実行例 6 . 2 . 7 - 1 ルートログイン確認

注意 コンソールにログインした場合、標準では日本語の表示が有効になっていないため日本語文字が化けて表示される。したがって、以降のような出力に日本語を含むコマンドをコンソールで実行する場合、以下のコマンドを実行して日本語表示を有効にしておく必要がある。

```
[root@swg72sv /root]# kon
```

実行例 6 . 2 . 7 - 2 日本語表示を有効にする

ネットワークインターフェース

以下のコマンドを使用してネットワークインターフェースが正常に起動されていることを確認する。

設定した内容が先のネットワークの設定と合致することを確認する。

```
ifconfig eth0
```

```
[root@swg72sv /root]# ifconfig eth0
```

```
eth0      リンク方法:イーサネット  ハードウェアアドレス 00:00:E2:23:37:B2
          inet アドレス:XX.XX.XX.XX  ブロードキャスト:XX.XX.XX.XX  マスク:XX.XX.XX.XX
```

```
          UP BROADCAST RUNNING MULTICAST  MTU:1500  Metric:1
```

```
          RX パケット:27644 エラー:0  損失:0  オーバラン:0  フレーム:0
```

```
          TX パケット:116 エラー:0  損失:0  オーバラン:0  キャリア:0
```

```
          衝突(Collisions):0
```

```
          割り込み:10  ベースアドレス:0x8c00
```

```
[root@swg72sv /root]#
```

実行例 6 . 2 . 7 - 3 ネットワークインターフェース確認

6 . 2 . 8 SWG72 サーバソフトウェアのインストール及び設定

以下の操作は全て root 権限でおこなう必要がある。

インストール元ファイルのコピー

以下のファイルを記録媒体 (CD-R) の「¥installer」ディレクトリからサーバ上の「/home/work」ディレクトリにコピーする。(このディレクトリがない場合は作成する。)

表 6 . 2 . 8 - 1 コピーするファイル

ファイル名	備考
Makefile	インストールコマンド
apache-1_3_9-swg72.tgz	WWW サーバ
postgres-6_5_3-swg72.tgz	PostgreSQL サーバ
swg72-1_0.tgz	SWG72 アプリケーション

6 . 2 . 9 インストールコマンドの実行

以下のようにコマンドを実行すると、インストールが行われる。

```
[root@swg72sv /root]# cd /home/work/
[root@swg72sv work]# make install
ユーザを作成します...
WWW サーバを展開します...
PostgreSQL サーバを展開します...
SWG72 サーバを展開します...
自動起動スクリプトを登録します...
make[1]: Entering directory `/home/swg72/rc3.d'
make[1]: Leaving directory `/home/swg72/rc3.d'
時間起動スクリプトを登録します...
SWG72 用 Perl ライブラリを登録します...
SWG72 サーバのインストールが完了しました
[root@swg72sv work]#
```

実行例 6 . 2 . 9 - 1 インストールコマンドの実行

実行例以外のメッセージが出力された場合は、インストールが正常に行われなかった可能性がある。

但し、以下のように (ignored)と表示されることがあるが動作上問題はないので無視して良い。

```
make: [clean] Error 8 (ignored)
```

6 . 2 . 1 0 受発注に伴う技術情報交換システムユーザパスワードの設定
swg72 ユーザでログインをおこなえるようパスワードを設定する。

```
[root@swg72sv /root]# passwd swg72  
New UNIX password:_____  
Retype new UNIX password:_____  
passwd: all authentication tokens updated successfully  
[root@swg72sv /root]#
```

実行例 6 . 2 . 1 0 - 1 swg72 ユーザパスワードの設定

6 . 2 . 1 1 受発注に伴う技術情報交換システムサーバのリ ブート
swg72 サーバの再起動をおこなう。
必要なプロセスはサーバ再起動時に自動で起動される。

```
[root@fugaku /root]# shutdown -r now  
[root@fugaku /root]#  
Broadcast message from root (ttyp0) Mon Jan 24 10:44:09 2000...  
  
The system is going down for reboot NOW !!
```

実行例 6 . 2 . 1 1 - 1 swg72 サーバのリブート

6 . 2 . 1 2 受発注に伴う技術情報交換システムサーバプロセスの正常起動確認
サーバが正常に起動した後、以下のコマンドで swg72 サーバプロセスの正常起動を確認する。以下は swg72 ユーザでおこなう。

```
Vine Linux 1.1CR (Rheingau)
Kernel 2.0.36 on an i686
login: swg72
Password:____
Last login: Mon Jan 24 10:35:56 from XXXX
swg72sv:~> ./swg72ps
SWG72 データベースは正常に動作しています。
SWG72 サーバ（発注側）は正常に動作しています。
SWG72 サーバ（受注側）は正常に動作しています。
swg72sv:~>
```

実行例 6 . 2 . 1 2 - 1 swg72 サーバプロセスの正常起動確認

6 . 2 . 1 3 自動起動スクリプトの登録確認

以下の確認を行うことにより、PostgreSQL の vacuumdb コマンドが定時に自動起動されることを確認する。最終行に注目する。（毎日 0 時 0 分に vacuumdb コマンド起動している。）

vacuumdb コマンドはインデックスの有効化、テーブル中のデータの削除等を行うコマンド。

```
[root@swg72sv swg72]# su postgres
tcsh: tron) 1998-07-07 (i386-intel-linux) options 8b,nls,dl,al,rh,color
tcsh: Trying to start from "/home/postgres"
[postgres@swg72sv ~]$ crontab -l
# DO NOT EDIT THIS FILE - edit the master and reinstall.
# (swg72.crontab installed on Fri Jan 28 18:31:27 2000)
# (Cron version -- $Id: crontab.c,v 2.13 1994/01/17 03:20:37 vixie Exp $)
SHELL=/bin/tcsh
0 0 * * * /home/postgres/bin/vacuumdb swg72
[postgres@swg72sv ~]$
```

実行例 6 . 2 . 1 3 - 1 自動起動スクリプトの登録確認

6 . 2 . 1 4 データベースの正常起動確認

サーバが正常に起動した後、以下のコマンドで swg72 データベースの正常起動を確認する。
以下は swg72 ユーザでおこなう。

```
swg72sv:~> psql
Welcome to the POSTGRESQL interactive sql monitor:

Please read the file COPYRIGHT for copyright terms of POSTGRESQL
[PostgreSQL 6.5.3 on i686-pc-linux-gnu, compiled by gcc 2.7.2.3]

type ¥? for help on slash commands
type ¥q to quit
type ¥g or terminate with semicolon to execute query
You are currently connected to the database: swg72

swg72=> ¥d
Database      = swg72

+-----+-----+-----+
| Owner          | Relation                      | Type   |
+-----+-----+-----+
| swg72          | gizyutu_zyouhou               | table  |
| swg72          | gizyutu_zyouhou_pkey          | index  |
| swg72          | mitumori_hattyuu             | table  |
| swg72          | mitumori_hattyuu_pkey        | index  |
| swg72          | torihikisaki                 | table  |
| swg72          | torihikisaki_pkey            | index  |
| swg72          | tuuti                         | table  |
| swg72          | tuuti_pkey                   | index  |
| swg72          | user_kanri                   | table  |
| swg72          | user_kanri_pkey              | index  |
+-----+-----+-----+

swg72=> ¥q
swg72sv:~>
```

実行例 6 . 2 . 1 4 - 1 swg72 データベースの正常起動確認

6.3 受発注に伴う技術情報交換システム発注者側管理者クライアント

6.3.1 前提条件

受発注に伴う技術情報交換システムサーバの導入、動作確認が済んでいること。

6.3.2 適用機種

本システムは、P C -AT 互換機 (DOS/V) 上で動作する。

6.3.3 適用 OS

本システムは、MS WindowsNT4.0(SP5)上で動作する。

6.3.4 前提プログラム

本システムは、以下に示すプログラムを前提とする。

表 6.3.4 - 1 前提プログラム一覧

種別	名称
マスタテーブル管理ツール	MS Access97

6.3.5 インストール及び設定手順概要

SWG72 発注者側管理者クライアントのインストール及び設定は以下の手順でおこなう。

1. OS (MS WindowsNT4.0(SP5)) のインストール及びネットワークの設定
2. OS (MS WindowsNT4.0(SP5)) 及びネットワークの正常動作の確認
3. MS Access97 のインストール及び設定
4. MS Access97 の正常動作の確認
5. PostgreSQL ODBC ドライバのインストール
6. PostgreSQL ODBC ドライバのインストール確認
7. ODBC データソースの設定
8. ODBC データソースの設定確認
9. MS Access97 から SWG72 データベースへの接続
10. MS Access97 から SWG72 データベースへの接続確認

1、2、3、4 の各手順は Microsoft 指定の方法で行えばよい。

以下に 5 以降の手順について述べる。

6 . 3 . 6 PostgreSQL ODBC ドライバのインストール

WindowsNT4.0 への PostgreSQL ODBC ドライバのインストールは以下の手順でおこなう。

1. PostgreSQL ODBC ドライバのダウンロード

PostgreSQL ODBCドライバをSWG72サーバからローカルPCへのダウンロードする。

2. PostgreSQL ODBC ドライバ(英語版)のインストール

インストーラ形式ファイルを実行することにより、インストールが実行される。

3. psqlodbc.dll (日本語版) ファイルの更新

先のインストールで導入されたファイルを日本語版で置き換える。

PostgreSQL ODBC ドライバのダウンロード

WWW ブラウザ(MSIE)に以下の URL アドレスを入力する。

<http://SWG72サーバのIPアドレス:88/odbc/>

以下のような画面になるので、ここから

- postdrv.exe
- psqlodbc.dll

をダウンロードする。(ダウンロード先は任意)

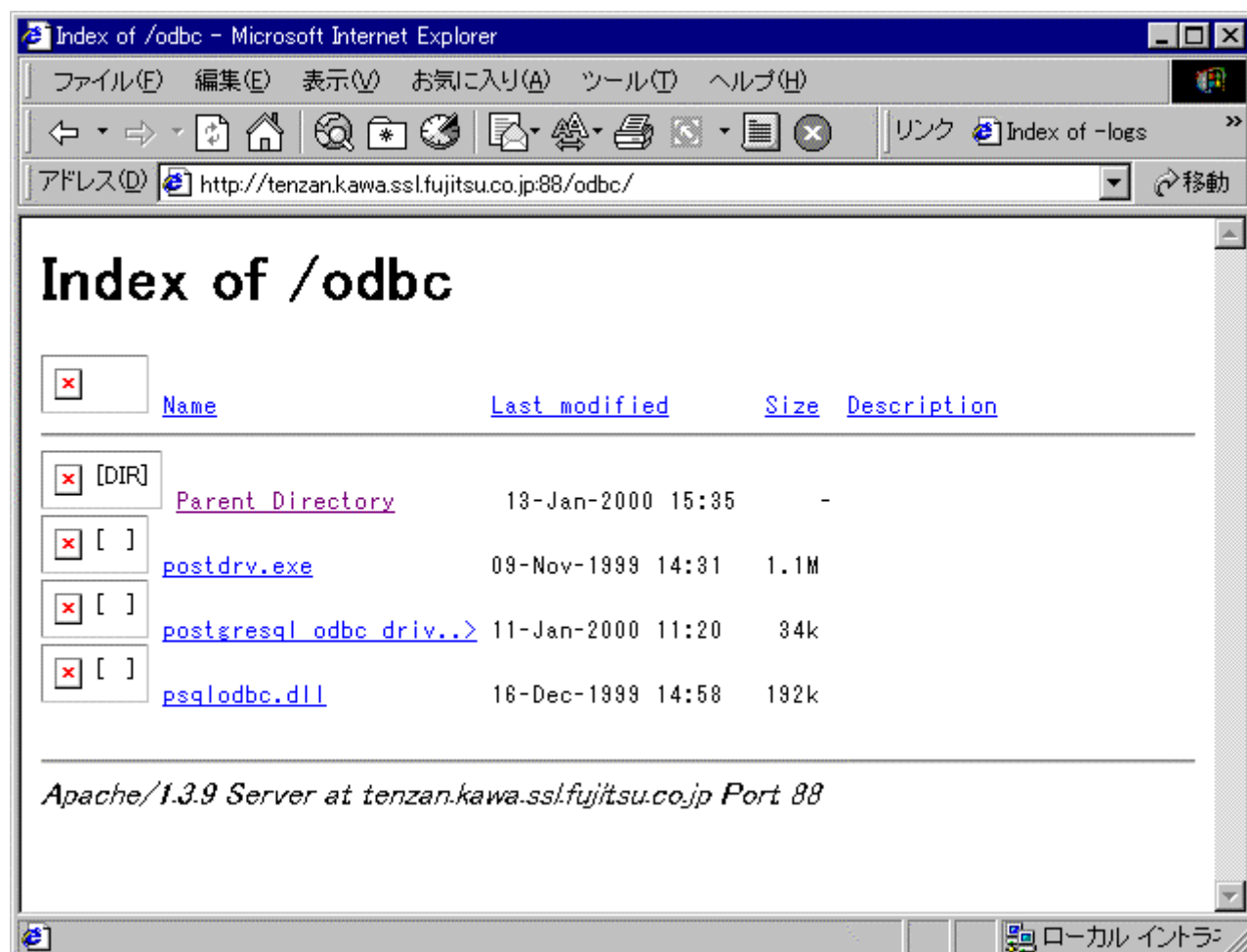


図 6 . 3 . 6 - 1 ODBC ドライバのダウンロード

PostgreSQL ODBC ドライバ(英語版)のインストール

先ほどダウンロードした postdrv.exe を実行する。(ダブルクリックする)
すると以下のような画面がでる。



図 6 . 3 . 6 - 2 ODBC ドライバ(英語版)のインストール(1)

ここで「はい(Y)」を選択する。

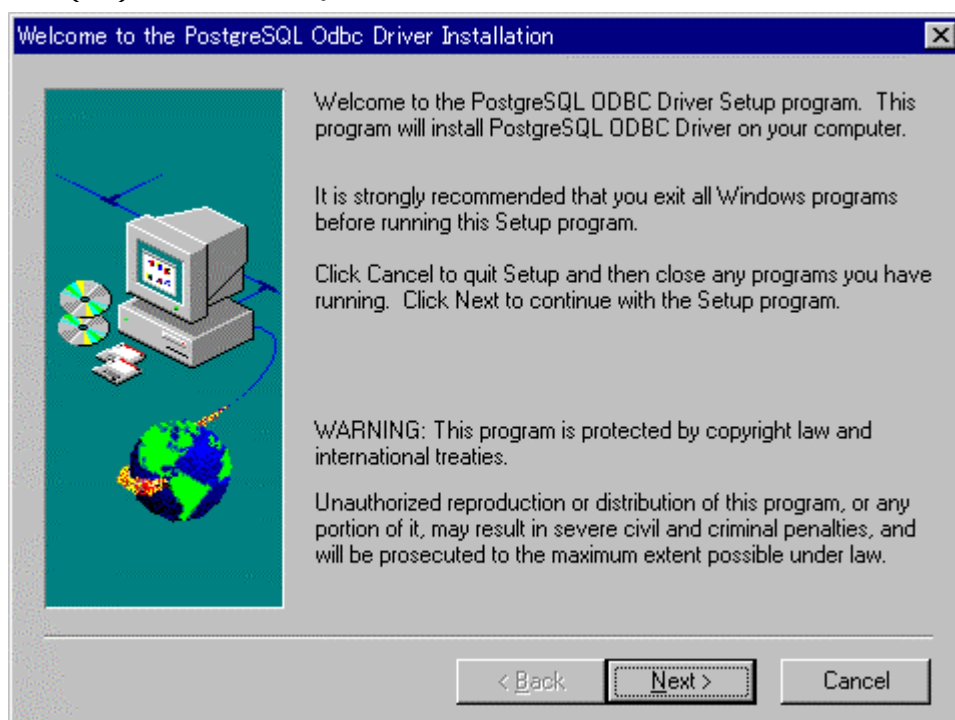


図 6 . 3 . 6 - 3 ODBC ドライバ(英語版)のインストール(2)

ここで「Next>」を選択する。

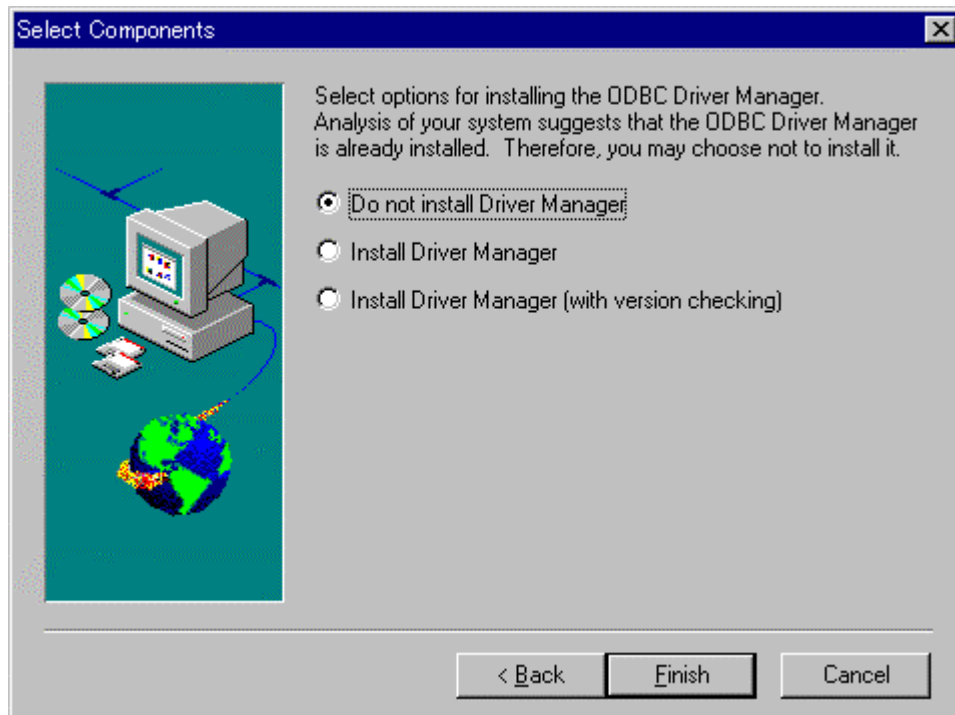


図 6 . 3 . 6 - 4 ODBC ドライバ(英語版)のインストール(3)

ここで「Do not install Driver Manager」が選択されているのを確認し、「Finish」を選択する。

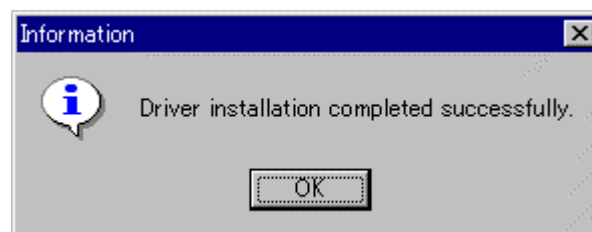


図 6 . 3 . 6 - 5 ODBC ドライバ(英語版)のインストール(4)

ここで、「OK」を選択しドライバの正常インストールを確認する。

psqlodbc.dll（日本語版）ファイルの更新

先の手順でインストールされたファイルの一つを日本語版と差し替える。

置換対象ファイル（%windir%\system32\psqlodbc.dll）を、最初の手順でダウンロードしたファイルに置き換える。

%windir% = WindowsNT がインストールされているシステムディレクトリ。（通常は C:\WINNT）

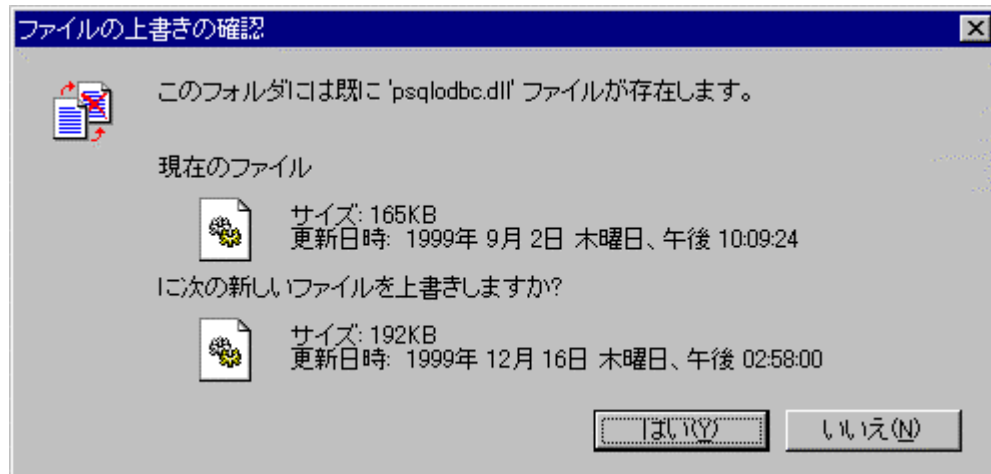


図 6 . 3 . 6 - 6 psqlodbc.dll（日本語版）ファイルの更新

その際、以下のような確認メッセージが出るが、「はい（Y）」を選択する。

以上で PostgreSQL ODBC ドライバのインストールが終了する。

6 . 3 . 7 PostgreSQL ODBC ドライバのインストール確認

以下の手順で PostgreSQL ODBC ドライバがインストールされているかを確認する。

「コントロールパネル」->「ODBC データソース」->「ドライバ」タブを開く。

「PostgreSQL」のバージョン番号、会社名の表示が下記のようにになっていることを確認する。



図 6 . 3 . 7 - 1 ODBC ドライバのインストール確認

6.3.8 ODBC データソースの設定

「コントロールパネル」を開き、「ODBC データソース」を選択（ダブルクリック）する。



図 6.3.8 - 1 コントロールパネル

「ODBC データソースアドミニストレータ」ダイアログが開くので、「システム DSN」タブを選択する。（ ODBC ドライバマネージャのバージョンによってはマシン DSN と表示される場合がある。）



図 6 . 3 . 8 - 2 ODBC データソースアドミニストレータ

「追加 (D) ...」ボタンを押すと、「データソースの新規作成」ダイアログが出る。



図 6 . 3 . 8 - 3 データソースの新規作成

リストの中から「PostgreSQL」を選択し「完了 (F)」を押す。

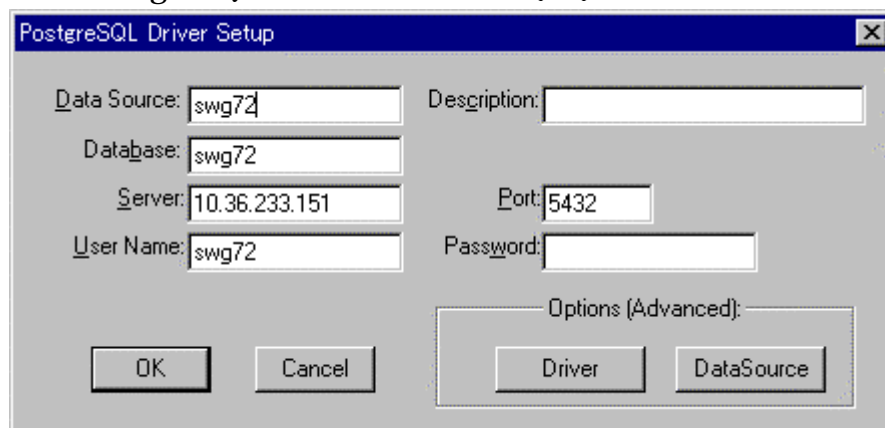


図 6 . 3 . 8 - 4 PostgreSQL Driver Setup

「PostgreSQL Driver Setup」ダイアログが出るので下記の情報を入力する。

Data Source: swg72

Database: swg72

Server: SWG72 サーバの IP アドレス

User Name: swg72

次に「Driver」ボタンを押す。次のようなダイアログが出るので「ReadOnly」のチェックを外してから、「OK」ボタンを押す。

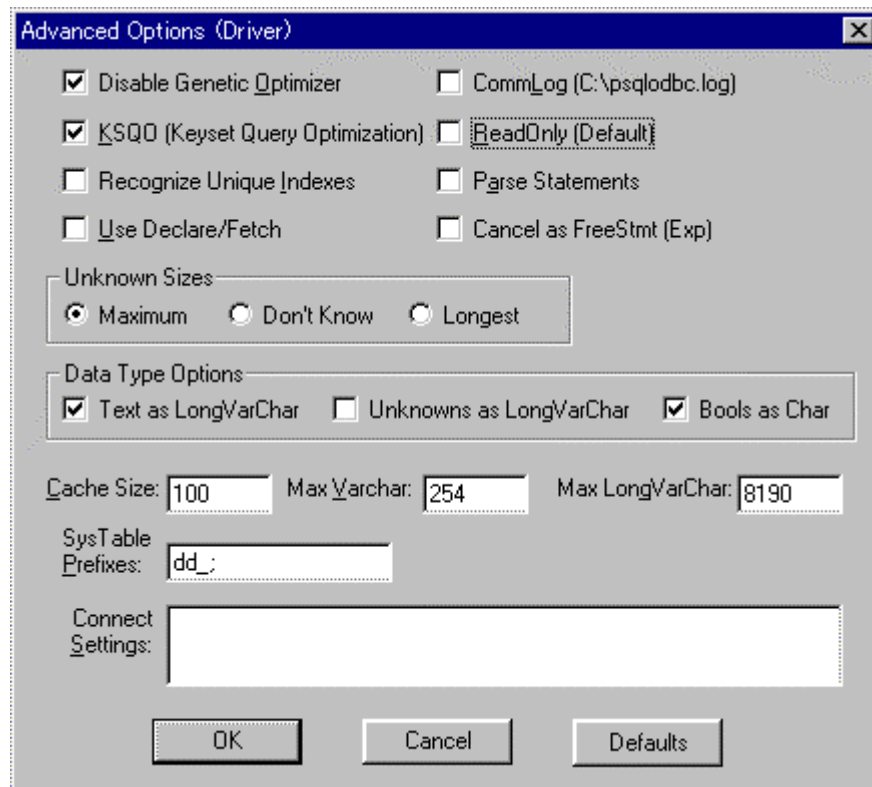


図 6 . 3 . 8 - 5 PostgreSQL Driver Setup(Driver)

「PostgreSQL Driver Setup」に戻るので、次に「DataSource」ボタンを押す。次のようなダイアログが出るので同様に「ReadOnly」のチェックを外してから、「OK」ボタンを押す。



図 6 . 3 . 8 - 6 PostgreSQL Driver Setup(DataSource)

「PostgreSQL Driver Setup」に戻るので、「OK」ボタンを押す。



図 6 . 3 . 8 - 7 ODBC データソースアドミニストレータ (終了)

「システム DSN」ダイアログに swg72 データソースが追加される。

「OK」ボタンを押し、ダイアログを閉じる。

6.3.9 ODBC データソースの設定確認

以下の手順で ODBC データソースが設定されているかを確認する。

「コントロールパネル」->「ODBC データソース」->「システム DSN」タブを開く。
「swg72」を選択し「構成 (C) ...」ボタンを押し、設定した内容をこの前のステップで設定したものになっていることを確認する。

6.3.10 MS Access97 から SWG72 データベースへの接続

以下の手順で、MS Access97 から直接 SWG72 データベース上のマスタテーブルの変更をおこなうことができる。

変更の対象となるマスタテーブルは、以下の通り。

- ユーザ管理テーブル
- 取引先テーブル

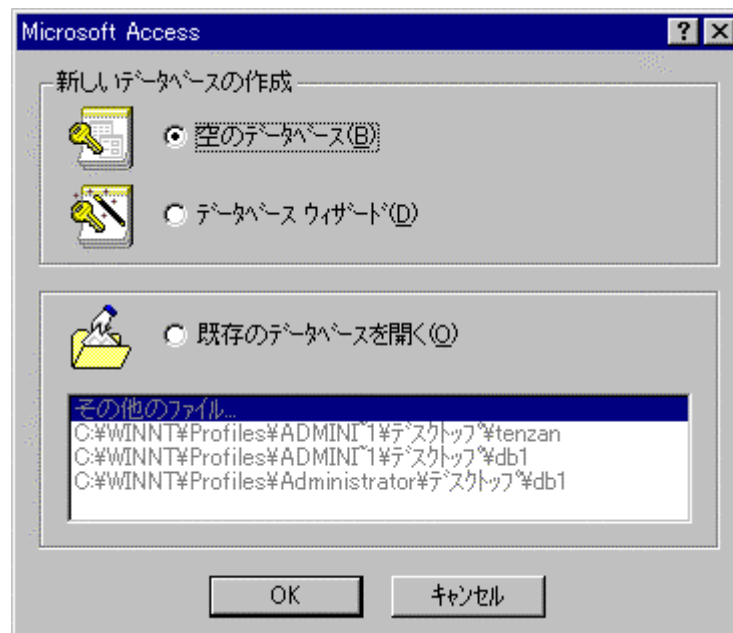


図 6.3.10 - 1 MS Access97 を起動

MS Access97 を起動し、最初に表示されるダイアログで「空のデータベース」を選択し「OK」ボタンを押す。

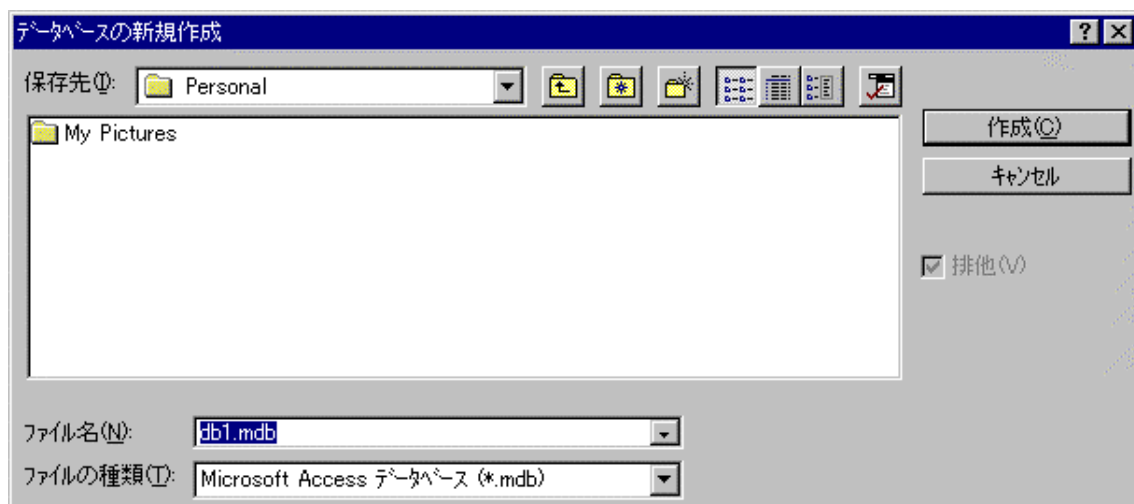


図 6 . 3 . 1 0 - 2 データベースの新規作成

「データベースの新規作成」ダイアログで、任意のファイル名を入れ「作成 (C)」ボタンを押す。

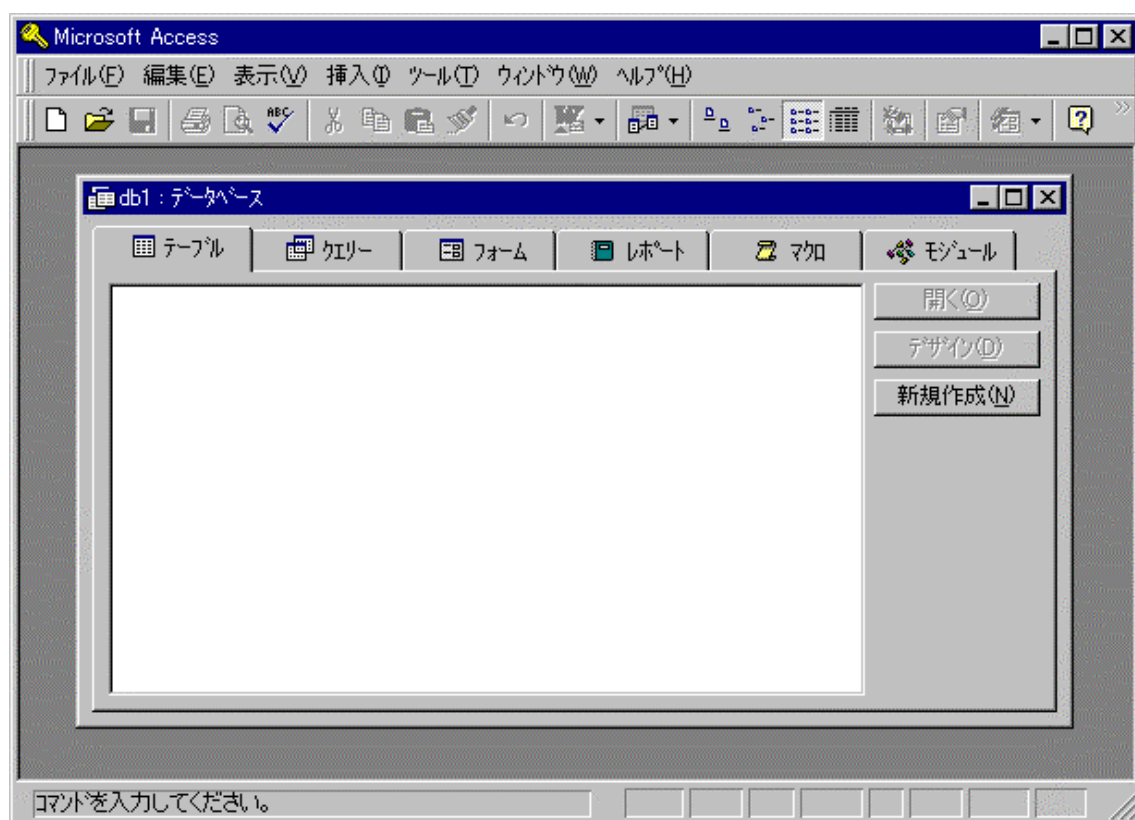


図 6 . 3 . 1 0 - 3 空のデータベース

空のデータベースが作成される。

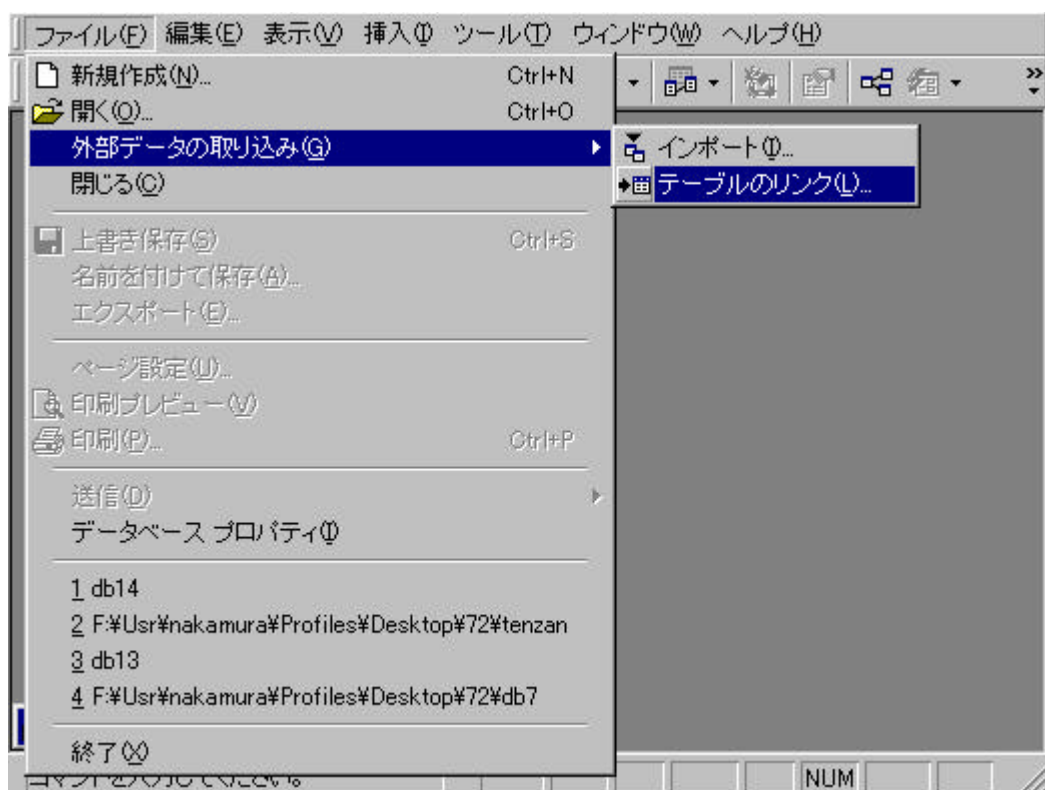


図 6 . 3 . 1 0 - 4 外部データの取り込み

「ファイル (F)」メニューから、「外部データの取り込み (G)」->「テーブルのリンク (L)」を選択する。

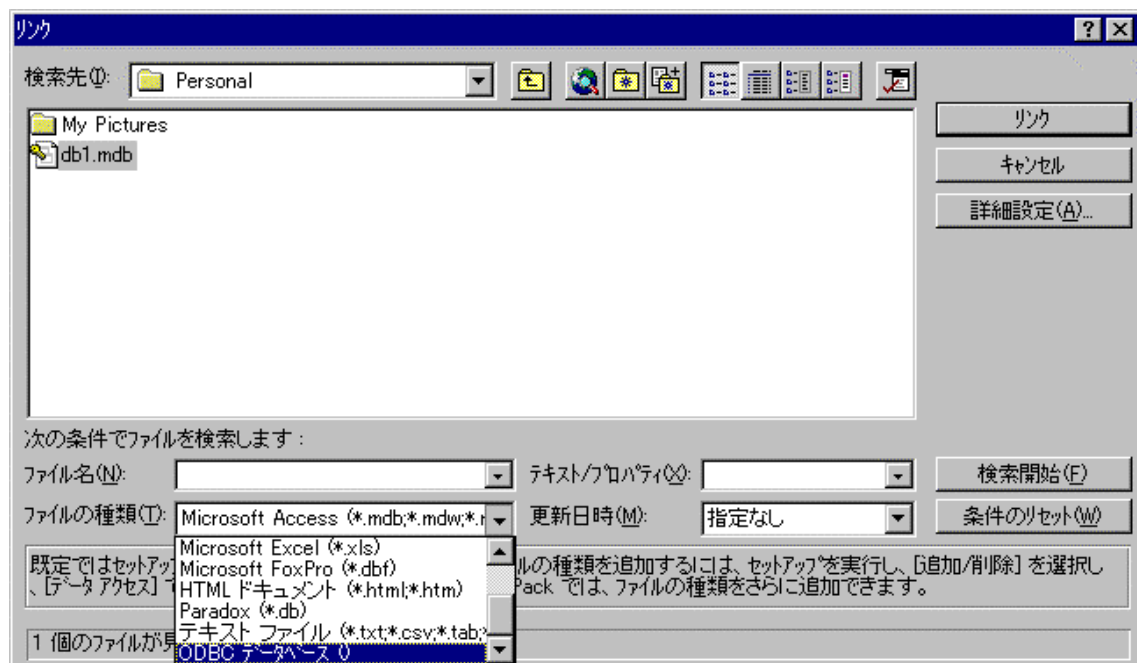


図 6 . 3 . 1 0 - 5 ファイルの種類

「リンク」ダイアログの「ファイルの種類 (T)」リストボックスから「ODBC データソース」を選択する。



図 6 . 3 . 1 0 - 6 コンピュータ データソース

「データソースの選択」ダイアログで「コンピュータ データソース」タブで先に作成したデータソースを選択し、「OK」ボタンを押す。

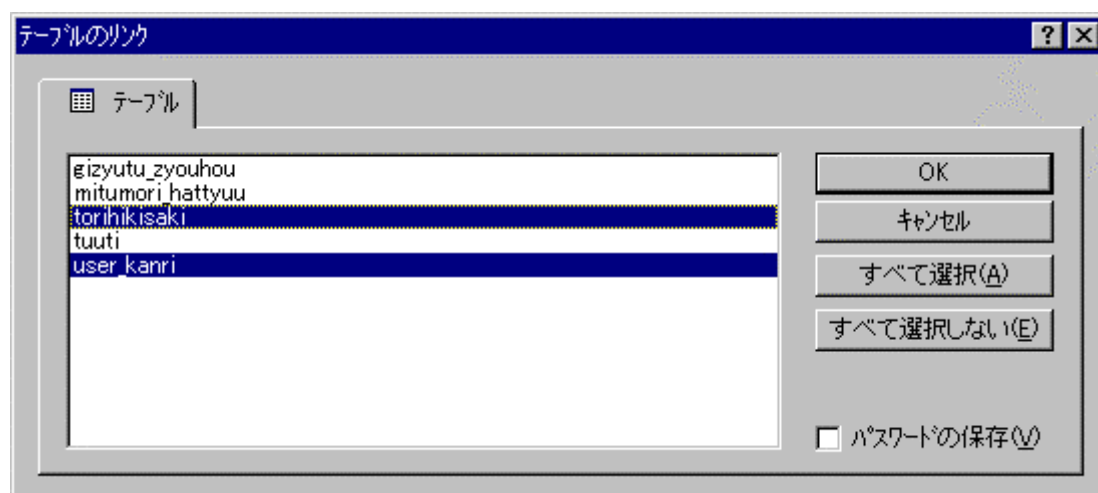


図 6 . 3 . 1 0 - 7 テーブルのリンク

次に、「テーブルのリンク」ダイアログで

- user_kanri (ユーザ管理テーブル)
- torihikisaki (取引先テーブル)

を選択する。

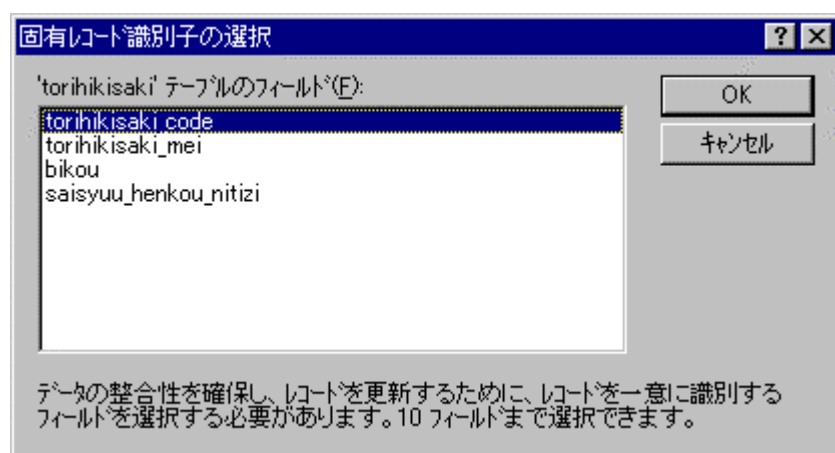


図 6 . 3 . 1 0 - 8 固有レコード識別子の選択 (1)

「固有レコード識別子の選択」ダイアログで、「取引先テーブル」のキー項目である「torihikisaki_code」を選択し「OK」ボタンを押す。

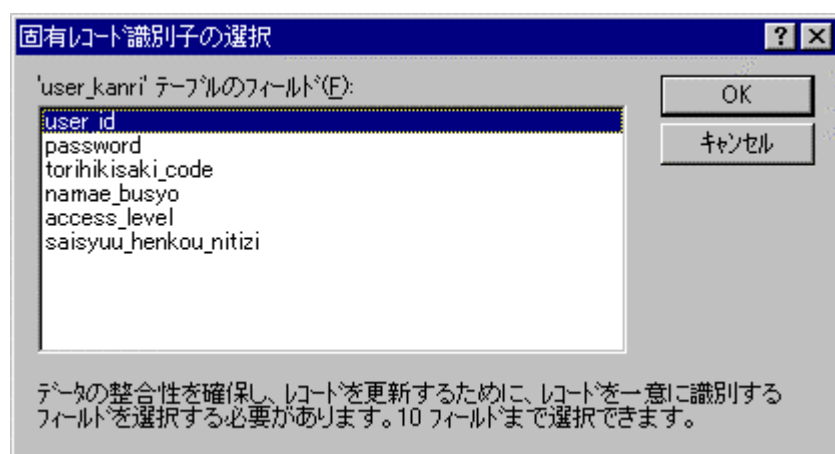


図 6 . 3 . 1 0 - 9 固有レコード識別子の選択 (2)

次の「固有レコード識別子の選択」ダイアログで、「ユーザ管理テーブル」のキー項目である「user_id」を選択し「OK」ボタンを押す。

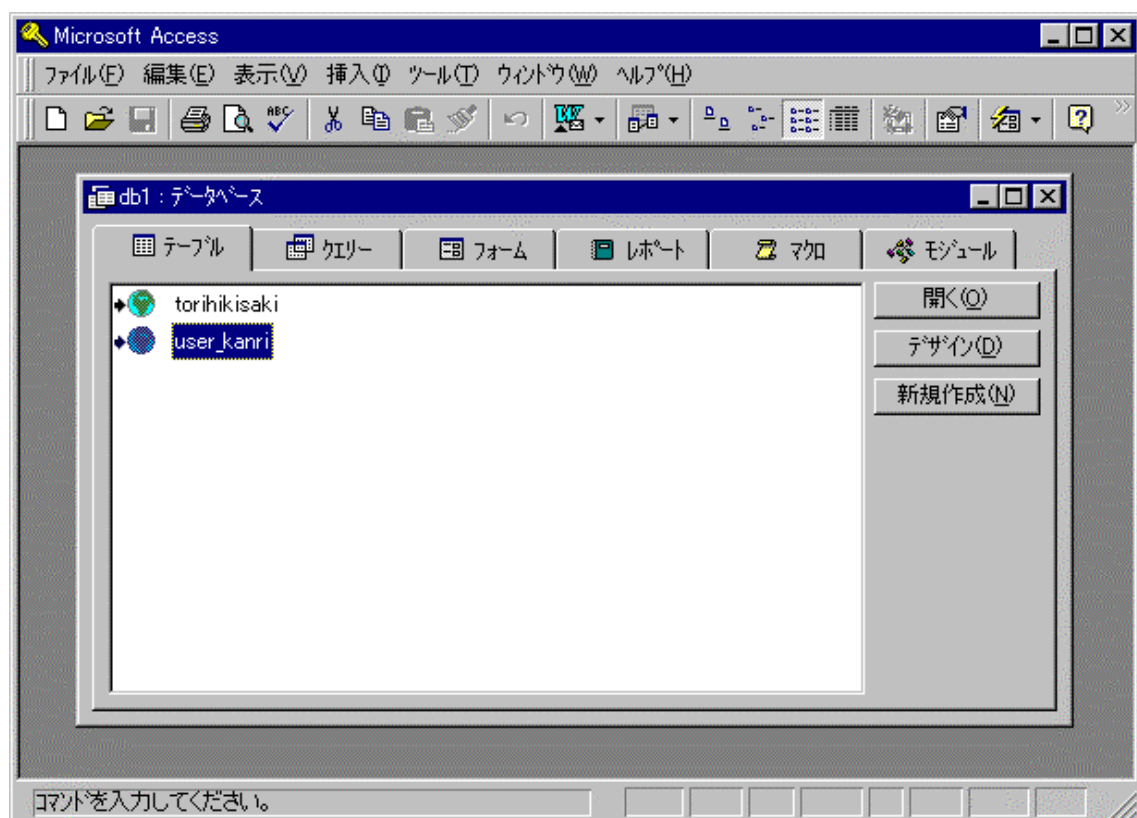


図 6 . 3 . 1 0 - 1 0 SWG72 データベースへの接続が完了

以上で、MS Access97 から SWG72 データベースへの接続が完了する。

6.3.11 MS Access97 から SWG72 データベースへの接続確認

前のステップで作成した Access ファイルをオープンし、「テーブル」タブから「user_kanri」（ユーザ管理テーブル）、「torihikisaki」（取引先テーブル）の各々を選択し、「開く（O）」ボタンを押し、各テーブルが参照、編集可能であることを確認する。

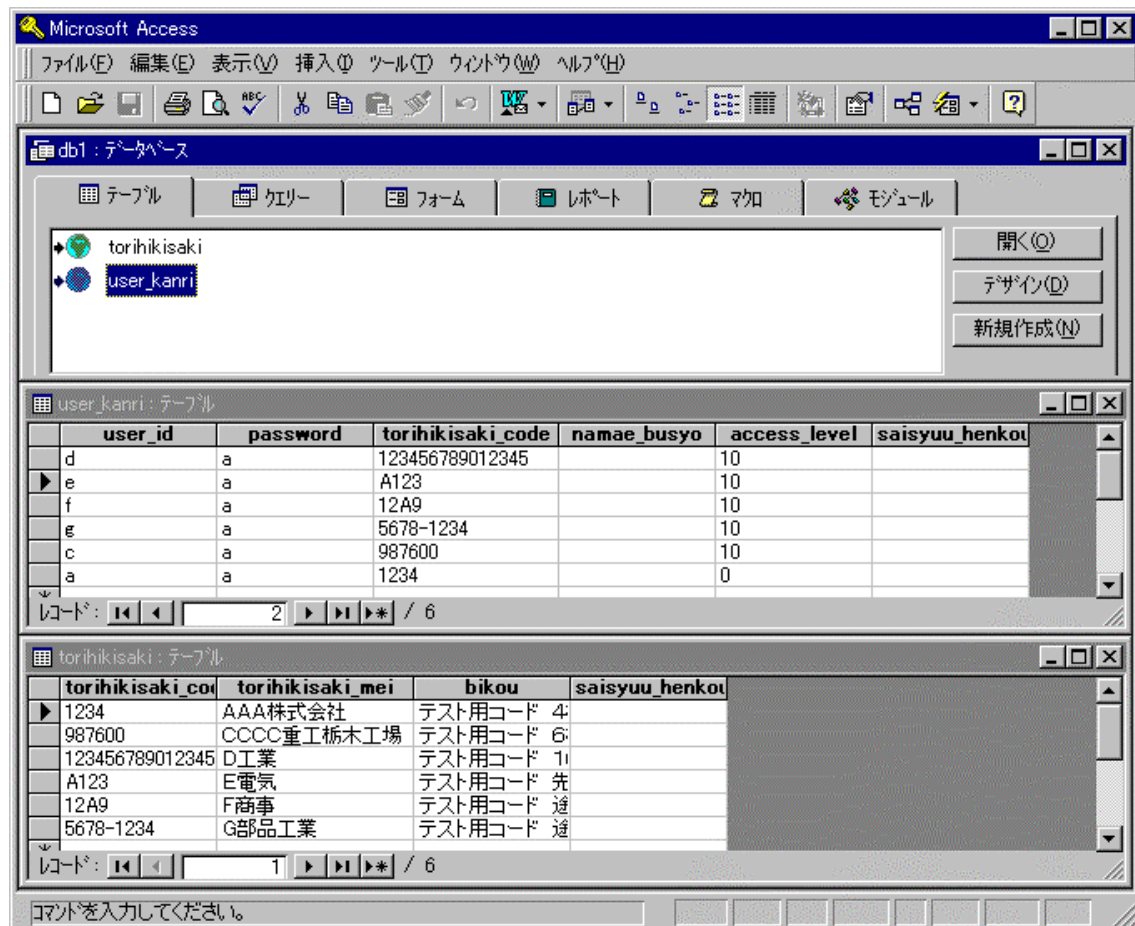


図 6.3.11 - 1 MS Access97 から SWG72 データベースへの接続確認

各テーブルの各行を選択することにより、直接の編集が可能になる。

6.4 受発注に伴う技術情報交換システム発注側クライアントに関する説明

6.4.1 適用機種

本システムは、P C -AT 互換機（DOS/V）上で動作する。

6.4.2 適用 OS

本システムは、MS WindowsNT4.0(SP5)上で動作する。

6.4.3 前提プログラム

本システムは、以下に示す機能上に構築されている。

表 6.4.3 - 1 前提プログラム一覧

種別	名称
Web ブラウザ	MS Internet Explorer 5.X

6.4.4 インストール及び設定手順概要

SWG72 発注側クライアントのインストール及び設定は以下の手順でおこなう。

1. OS (MS WindowsNT4.0(SP5)) のインストール及びネットワークの設定
2. OS (MS WindowsNT4.0(SP5)) 及びネットワークの正常動作の確認
3. MS Internet Explorer 5.X のインストール及び設定
4. SWG72 発注側クライアントの正常動作の確認

1,2,3 の各手順は Microsoft 指定の方法で行えばよい。

以降に 4 の手順について述べる。

6.4.5 受発注に伴う技術情報交換システム発注側クライアントの正常動作の確認

Internet Explorer を起動し、アドレスに以下を指定する。

<http://SWG72サーバIPアドレス:88/>

すると以下のような発注側クライアントにアクセスするための「ネットワークパスワードの入力」ダイアログが出るので、「ユーザ名 (U)」と「パスワード (P)」に「ユーザ管理テーブル」に登録してあるもの (発注側) を入力する。

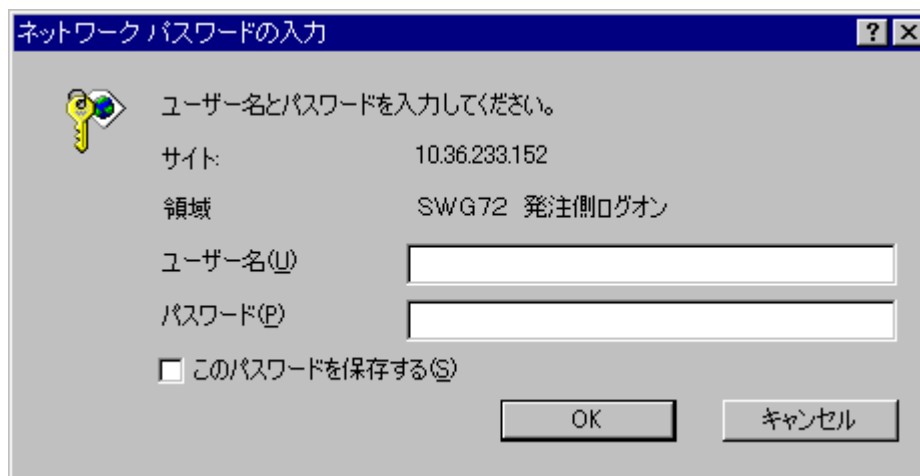


図 6.4.5 - 1 「ネットワークパスワードの入力」ダイアログ

すると以下のような、SWG72 発注側クライアントの初期画面になる。

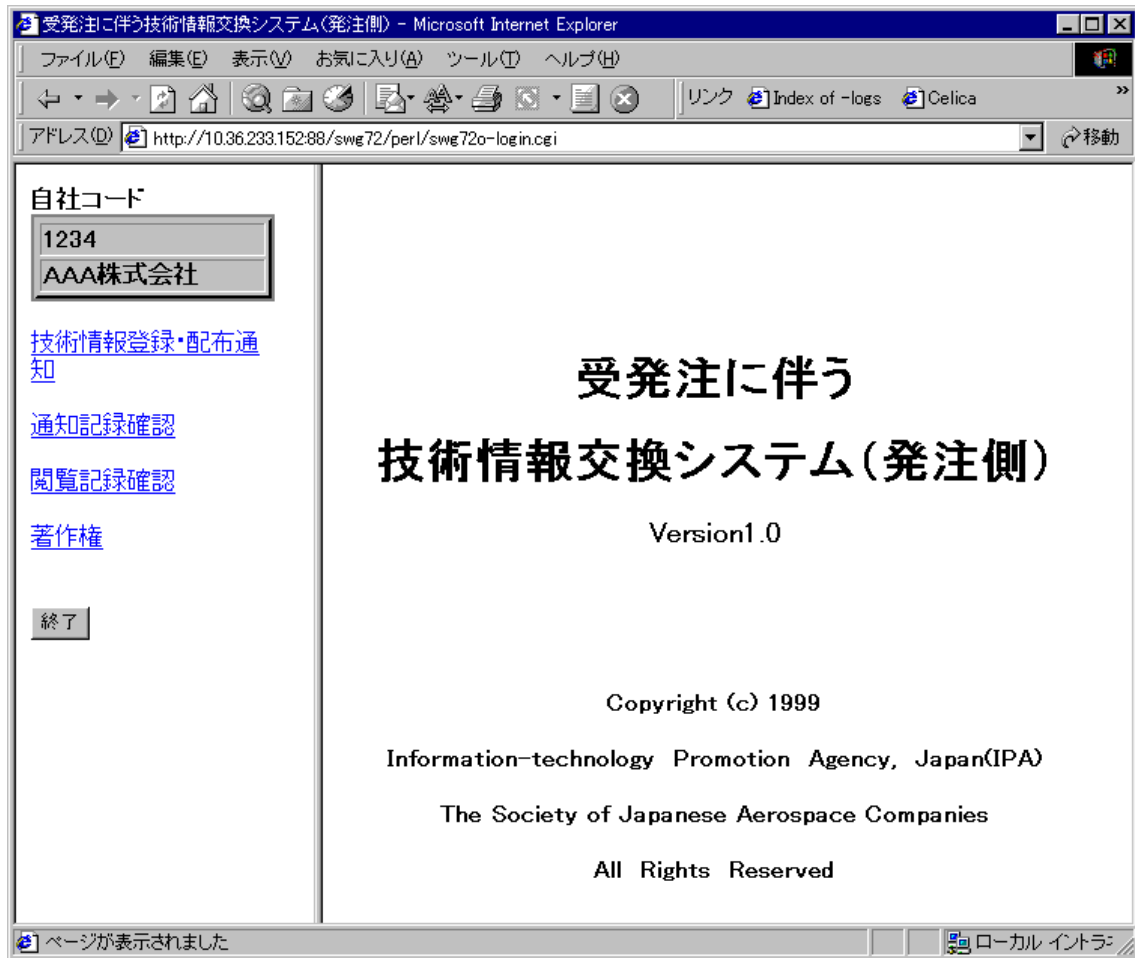


図 6 . 4 . 5 - 2 SWG72 発注側クライアントの初期画面

6.5 受発注に伴う技術情報交換システム受注側クライアントに関する説明

6.5.1 適用機種

本システムは、P C -AT 互換機（DOS/V）上で動作する。

6.5.2 適用 OS

本システムは、MS WindowsNT4.0(SP5)上で動作する。

6.5.3 前提プログラム

本システムは、以下に示す機能上に構築されている。

表 6.5.3 - 1 前提プログラム一覧

種別	名称
Web ブラウザ	MS Internet Explorer 5.X

6.5.4 インストール及び設定手順概要

SWG72 発注側クライアントのインストール及び設定は以下の手順でおこなう。

1. OS（MS WindowsNT4.0(SP5)）のインストール及びネットワークの設定
2. OS（MS WindowsNT4.0(SP5)）及びネットワークの正常動作の確認
3. MS Internet Explorer 5.X のインストール及び設定
4. SWG72 受注側クライアントの正常動作の確認

1,2,3 の各手順は Microsoft 指定の方法で行えばよい。

以降に 4 の手順について述べる。

6.5.5 受発注に伴う技術情報交換システム受注側クライアントの正常動作の確認

Internet Explorer を起動し、アドレスに以下を指定する。

<http://SWG72サーバIPアドレス/>

すると以下のような受注側クライアントにアクセスするための「ネットワークパスワードの入力」ダイアログが出るので、「ユーザ名 (U)」と「パスワード (P)」に「ユーザ管理テーブル」に登録してあるもの (受注側) を入力する。

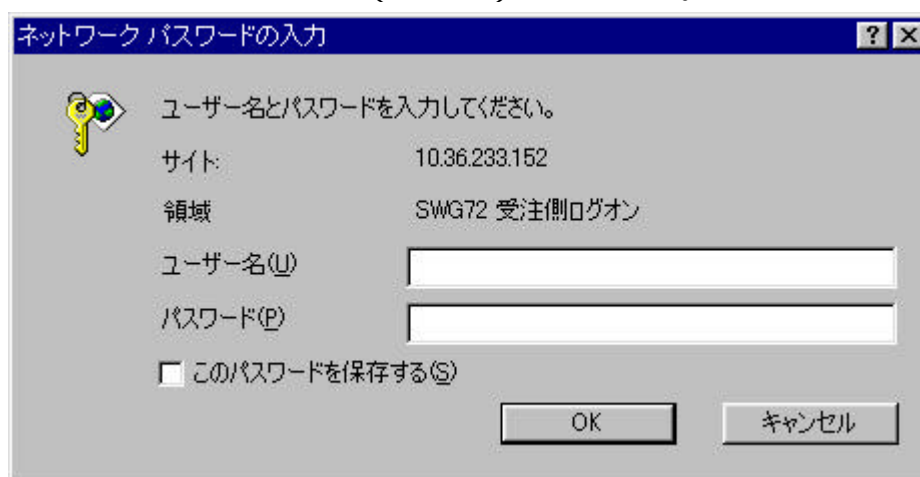


図 6.5.5 - 1 「ネットワークパスワードの入力」ダイアログ

すると以下のような、SWG72 受注側クライアントの初期画面になる。

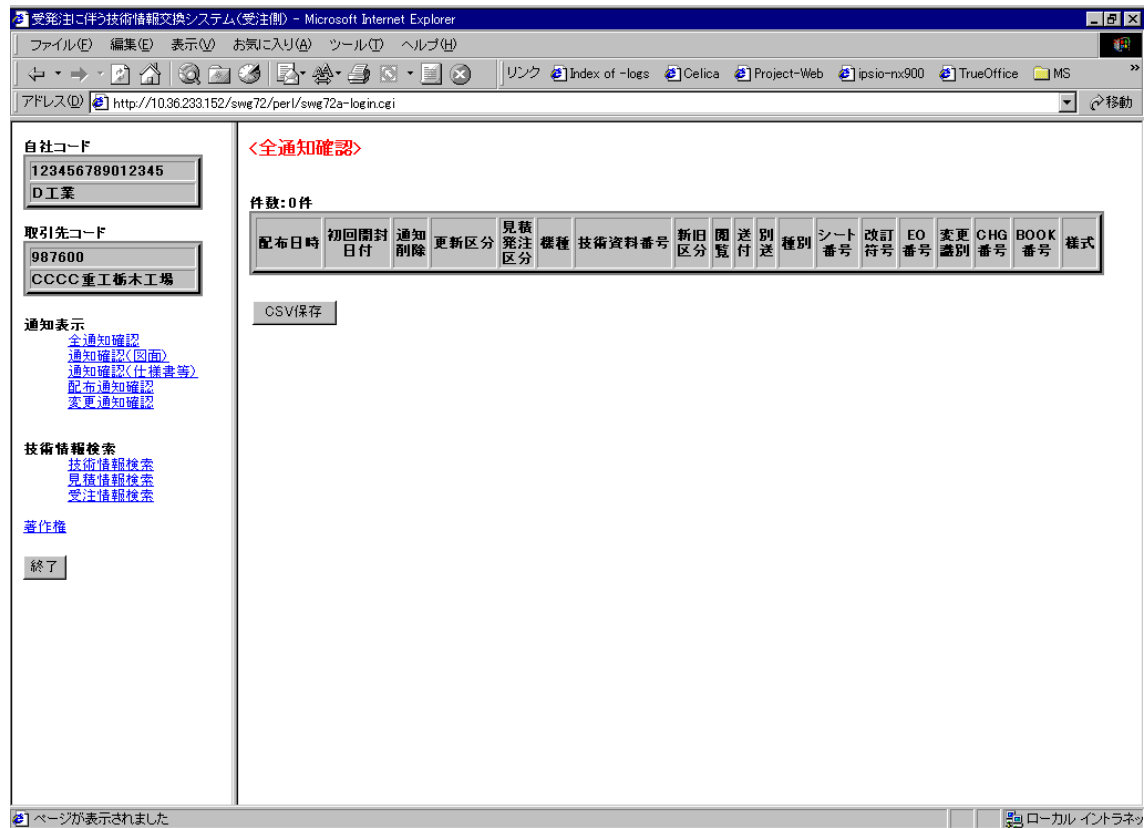


図 6 . 5 . 5 - 2 SWG72 受注側クライアントの初期画面